

岩手の風土記シリーズ（29） 『縄文人に想いを馳せて』

「縄文遺跡」は日本各地に存在していて、発掘調査が現在でもおこなわれている。筆者は、縄文時代とは漠然としたイメージで、旧石器時代と弥生時代の間程度のイメージしか持ち合わせていなかった。縄文時代は今から15000



年前（紀元前13000年）に始まって、2400年前（紀元前400年）まで、約1万年も続いた時代であった。そして大きく総早期、早期、前期、【三内丸山遺跡 公式HPから引用】中期、後期、晩期の6つに分けられている。その時の気候は比較的温暖な気候が続いていて、晩期に冷涼な気候になり、その時代の終焉を迎えることになった。そして今縄文時代が再び脚光を浴びることになった。昨年（2021年）7月に「北海道・北東北縄文遺跡群」がユネスコの世界遺産に登録されたのだ。東北では白神山地、平泉（仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群）、釜石（明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業）に次ぐ4番目の登録となった。岩手ではこのうち実に3つの世界遺産誕生という事になった。めでたいことである。この「北海道・北東北縄文遺跡群」は、採取・漁労・狩猟を基盤とした定住を1万年以上の長期間継続した世界的にも稀有な資産であり、たぐいまれなる精神性を含む生活の在り方、及び自然環境の変動に応じて変容させた集落の立地と構造を示す17の遺跡群に、農耕以前の人類の生き方を理解するうえで貴重であるとして、世界遺産に登録された。この縄文遺跡群には北海道で6か所、青森県で8か所、秋田県で2か所、岩手県



【遮光器土偶】

で1か所が指定されている。その代表的な遺跡は青森県の三内丸山遺跡であろう。高さ14.7mの大型掘立柱建物には目を見張るものがある。また、縄文時代の遺物としては、なんといっても国宝に指定されている遮光器土偶であろう。この遮光器土偶は青森県つがる市の「亀ヶ岡石器時代遺跡」で発見されたものである。遮光器土偶と命名したのは、目の形がエスキモーであるイヌイットの人達が、光の雪での反射を抑えるための遮光器に似ているからとされる。この土偶はその形から宇宙人だという説もあるようだ。さて、縄文時代と言われる所以は 明治初期に行われた3000年前の遺跡である、東京大森貝塚の発掘調査にはじまる、このときの研究者であるアメリカ人の考古学者エドワード・モースらが発掘した土器類に縄目の模様があることから、縄文土器と名付けた。その後日本各地で縄文土器が発見されたことから、この縄文土器の作られた時代を縄文時代というようになった。しかし縄文時代草創期（旧石器時代から縄文時代に変って直ぐの頃）の遺跡である青森県の太平洋元山遺跡から出土した土器類には、この網目の文様がなく、「無文土器」とよばれている。

この大平元山遺跡は日本最古の縄文遺跡とされているようだ。この遺跡ではまだ縄文人の住居の痕跡は見つかっていないようだ。これからの進展が楽しみである。この当時世界各地では中国、メソポタミア、インダス、エジプト等の古代文明が栄えていて、それらに共通するものは農耕（小麦等の栽培）で、農耕によって多くの人を定住させることできたとされている。しかし、当時日本で発掘された縄文遺跡の規模はどれも比較的小さいもので、縄文人は少人数規模で狩りをしながら移動生活を送っていたというイメージが作られたようだ。そしてこのイメージを覆すような大発見が起きてしまった。青森県の野球場の建設工事中に大規模な貝塚が出て、その調査をしたところ、大規模な居住地の遺跡と確認されたのが、三内丸山遺跡である。実に東京ドーム9個分以上もあり、現在でも発掘調査が継続されているようだ。実は縄文人は石器を作って狩りをし、土器を使って煮炊きをすることで、定住を始めた人たちであるというのが現在の定説となっている。この発見により色々なことが分かってきた。まずは何といても自然との共生であろう。縄文人は自らブナやドングリの林を切り開いてクリの木を植えてそのクリ林を管理していたことである。農耕では無いが、クリの植樹等を行って、その恵みを共有していたようだ。



【御所野縄文博物館】

当時クリの木は自然には生えていなく、人類が植樹しない限りは栗林は存在しないとされていた。三内丸山遺跡にそびえ立つ巨大な建造物は、巨大なクリの木の柱6本から構成されていた。このクリの柱は直径1m以上もありその樹齢は相当なものであると考えられる。ところで、岩手県で唯一世界遺産に指定された一戸町の【御所野遺跡（ごしょのいせき）】を訪ねてきた。御所野遺跡は縄文時代の中期後半（5000年～4500年前）にこの地に存在した。この「ムラ（集落）」で約800年間、人人が暮らし続けたことが分かっている。この御所野遺跡の場所は国道4号線盛岡方面から北上して、一戸町の小鳥谷の過ぎたあたりで御所野縄文公園という大きな看板が出ているのですぐわかる。看板を右折して道なりに行くと駐車場が見えてくる。車を降りてドーム状の「きききのつりはし」をぬけると左手に博物館、そのまま直進すると「ムラ」



【御所野遺跡の概要】

が見えてくる。御所野遺跡は「東ムラ」、「中央ムラ」、「西ムラ」の3つのムラから構成されている。まず1歩ムラに足を踏み入れてみた。当日は生憎の小雨交じりであったが、何か縄文人の息吹きを感じたような気がした。西ムラまでは結構な距離があり、徒歩で約15分程度かかった気がする。中央のムラには、「配石遺構」があり、お墓と考えられる巨石の集合体が見受けられた。また掘立柱建物の跡もあり、当時はコミュニティセンター的な役割

を担っていて、共同の祈りの場だったようだ。この御所野遺跡で大きな発見があった。一般的に縄文人の住居である竪穴式住居では茅葺屋根であった。しかしここでは屋根に土が乗っていたことが分かったのである。これは発掘した建物の崩れ落ちた屋根の土の下に建物に使ったクリの木材が炭になって残っていたことにより分かった。これは縄文時代の遺跡では初めての発見であった。クリ材は丈夫で腐りにくく、樹皮は屋根材として使われていた。ここでは



【御所野遺跡の復元住居】

復元した土屋根建物の焼失実験が行われ、その結果焼失建物の遺跡は火災等で焼けたわけではなく、「御所野ムラ」の人達が意図的に火をつけて燃やした可能性が高まった。この目的は推測の域を出ないが、アイヌの人達は、死者を弔うためにその持ち物はもちろん住居も燃やしてしまう風習があるようだ。縄文人たちも家を燃やして、黄泉の国にいても、住む場所に困らないようにという願いが込められていたのかもしれない。さらに驚くべきには、当時の御所野ムラには生活道具を作る技術はもちろんの事、遠く離れた場所から材料を取り寄せるための幅広いネットワークを持っていたことが分かった。接着剤になる天然アスファルトや石器の材料となる形質頁岩や黒曜石は日本海側から、石斧の材料のアオトラ石は北海道日高地方から、副葬品の琥珀は久慈地方、ヒスイは新潟県の糸魚川地方から運ばれたと考えられた。また遺跡からは石器を作るときに出てくるとても小さな石くずが多く見つかっている。いわゆる削りカスの石片である。このことから御所野ムラの人達は、ヤジリなどの石器を作っているムラだったのかもしれない。いわゆる職人のムラだった可能性が高いという事だ。もう一つ驚くべき縄文人の技術を紹介しよう。ウルシの技術である。実はウルシは縄文時代から使われていたことが分かっていた。この御所野ムラでも、網物の跡が残る土器を調べていたところ、内面や外面に赤い色がついていることが分かった。成分を調べると「ベンガラ（酸化鉄の顔料）」をウルシに混ぜていることが判明した。これにより御所野ムラでもウルシが使われていたことが初めて裏付けられた。縄文時代晩期（約1000年前）の八戸市の是川石器時代遺跡ではウルシがぬられた弓や櫛、腕輪など多数のウルシ製品が出土しているが、それよりも以前にウルシの実用化が行われていたことになる。実はウルシの塗膜は耐熱、耐酸、耐アルカリ性に優れた塗膜である。ウルシの塗料としての価値が分かっていたことは驚くべきことである。この他自然との共有方法、食糧事情（塩が調味料として定着する以前の食事方法）や、衣服や装飾品の話や住居の話、土偶の役割など、まだまだ多くの語りつく



【鼻曲り土面】

していない事柄がある。しかし紙面の関係から今回は割愛する事とする。最後に「鼻曲り土面」を紹介しよう。この土面は縄文晩期の出土品で、とてもユニークな形をしている。何のためのものだろうか？当時の作者に遊びころがあったとしか思えないものである。御

所野縄文博物館の売店では、この鼻曲り土面のクッキーが売っていた。このように縄文人が確立した技術は、現代でも脈々と息づいているという事実だ。まずは狩りに使った石器のヤジリや石斧、煮炊きに使った土器類、骨で作った釣り針、植物を編んで作った衣類、そして漆器の技術や森の管理方法などである。縄文人が最初にその技術を見出さなかったら、どうなっていたらうか？特に漆による漆器の技術は当初土器や土偶の装飾用から始まり、次第に漆器などの実用品に発展していったと考えられる。漆の活用技術を最初に見つけたのはどのような経緯か、大変興味をそそる。それらを考えると、まずは縄文人に感謝である。筆者も小学生の頃、近所の畑でヤジリなどを拾って遊んだことをふと思い出した。実は縄文遺跡は岩手にも各地に存在している。しかしいずれも小規模であり、「ムラ」を形成するような規模の遺跡は数少ない。この数少ない大規模な遺跡として、一戸町にある御所野遺跡（ごしょのいせき）が世界遺産に登録された。この縄文時代を体感できる御所野遺跡に皆さんも、是非一度訪ねてみて縄文人に感謝を込めて、想いを馳せてみませんか？

参考資料

縄文遺跡群世界遺産事務局 公式ホームページ (jomon-japan.jp)

御所野縄文公園 ホームページ (goshono-iseki.com)

縄文遺跡群世界遺産登録推進本部

パンフレット 北海道・北東北の縄文遺跡群

一戸町教育委員会・御所野縄文博物館 発行 御所野遺跡探求パンフレット
自然とともに生きた 縄文人

大正大学出版会発行 地球人第74号 北東北・北海道の縄文遺蹟をゆく
IBC テレビ 世界遺産「北海道・北東北でなぜ？縄文遺跡の謎」

BS フジ 日本遺産物語～北海道・北東北の縄文遺跡群 時空を超える旅～